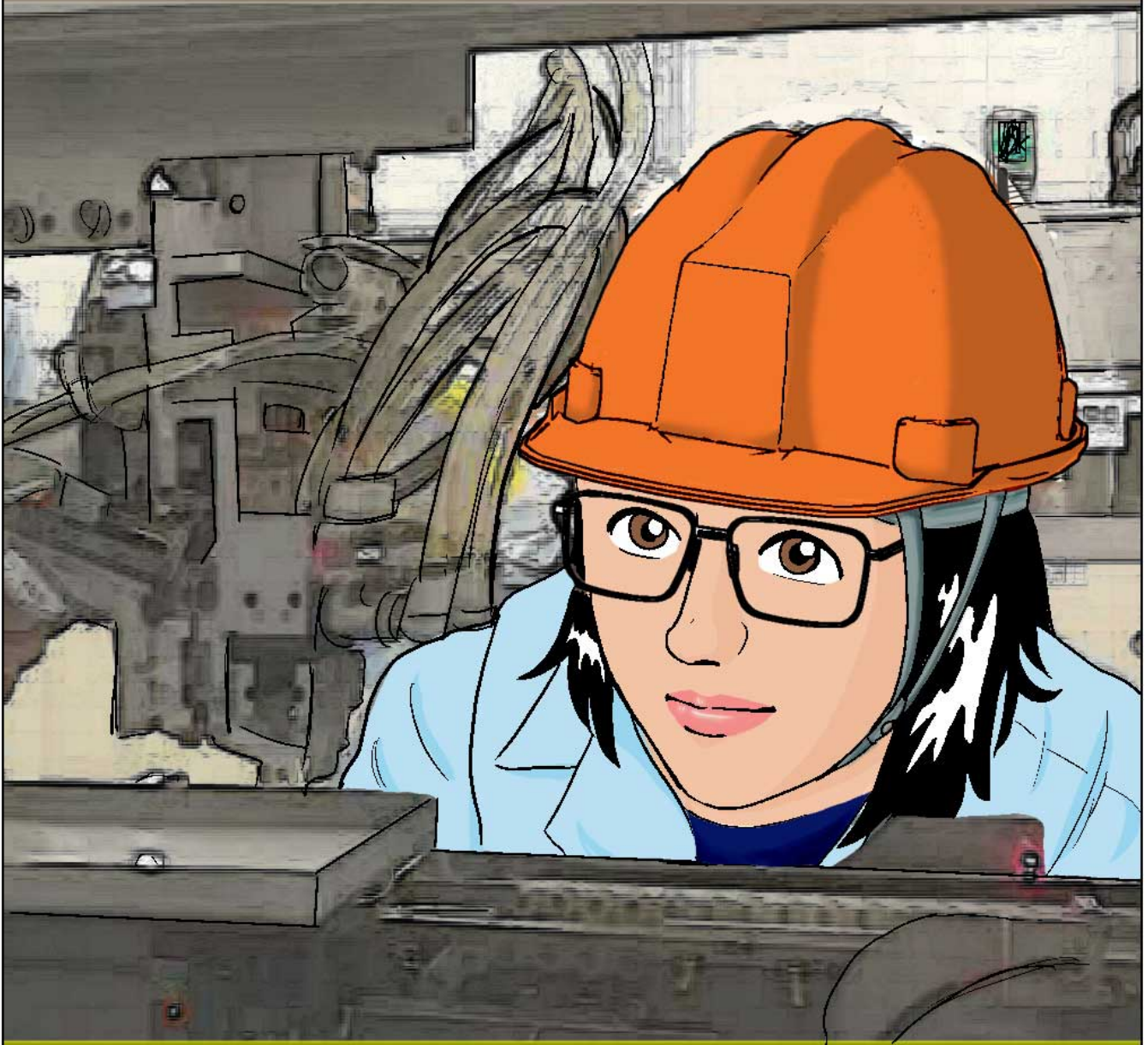


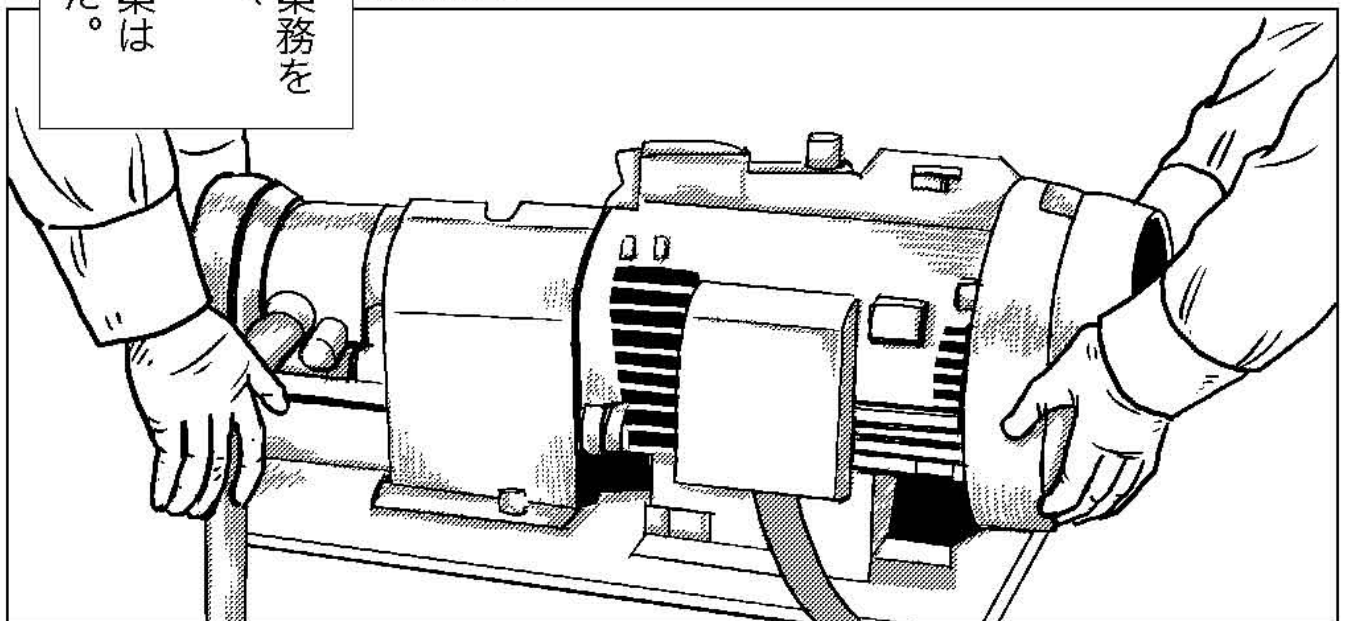
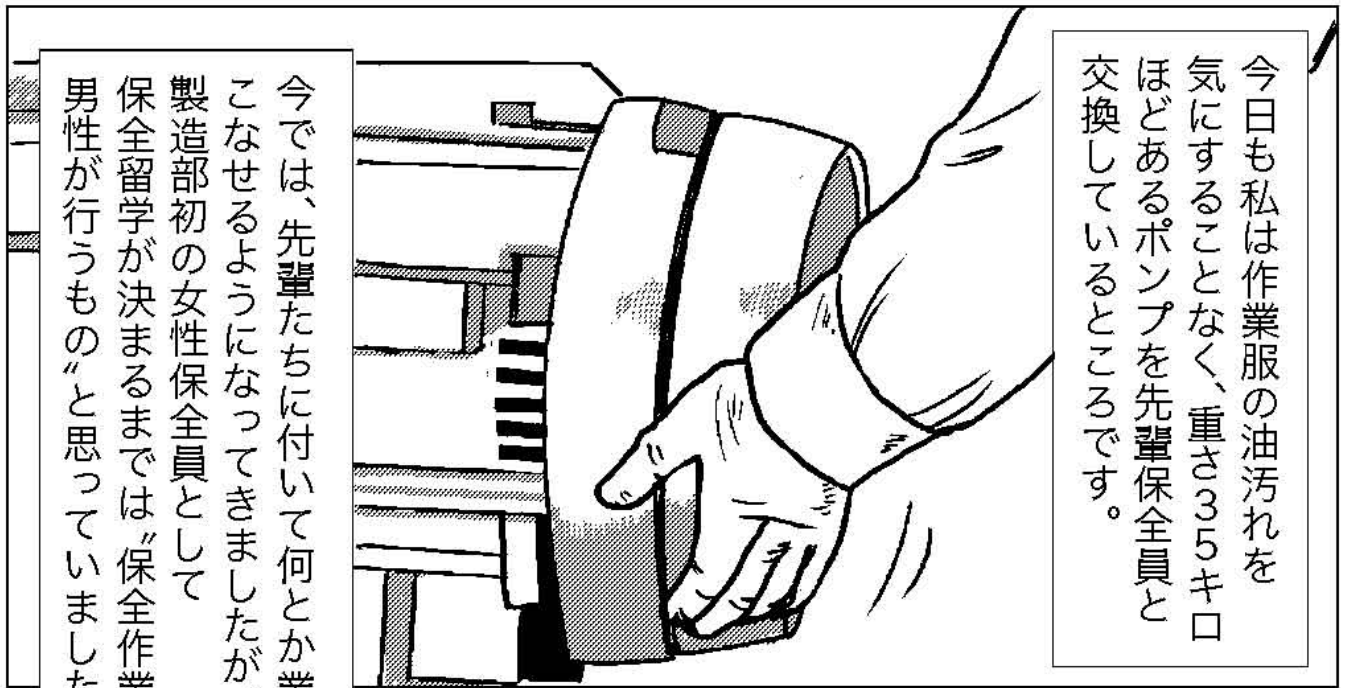
第49回 全国設備管理強調月間 作文 金賞

株式会社デンソー 大橋りさ

憧れの保全ガール



公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会





正確にいうと

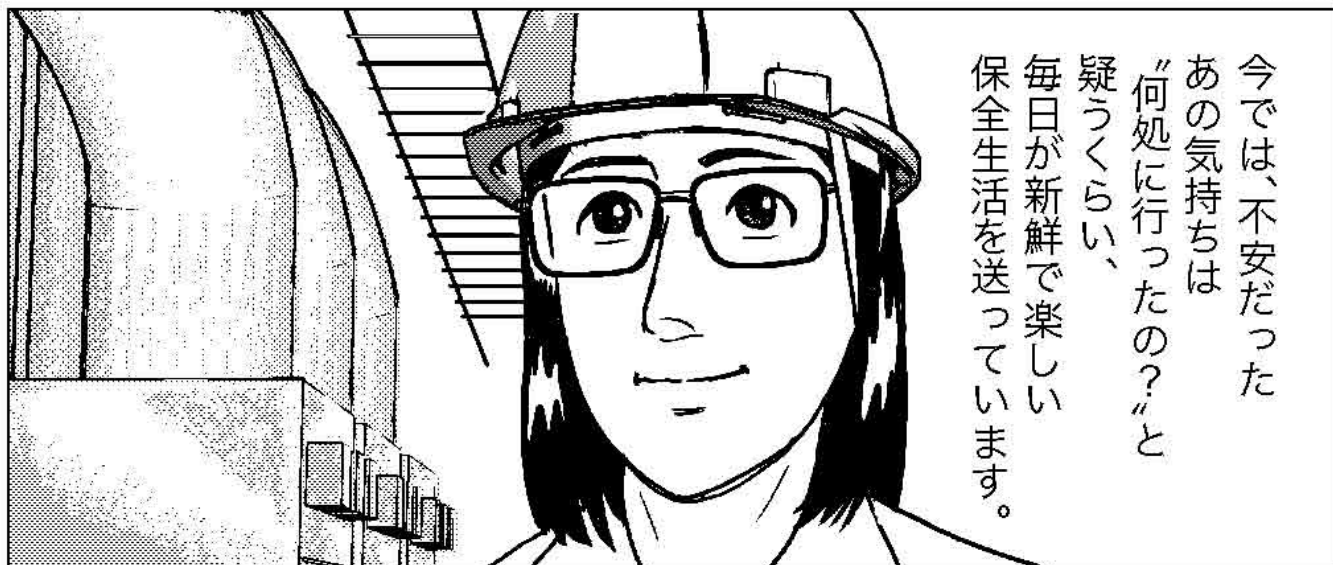
保全への憧れを押し殺すために、
自分にずっとそう言い聞かせて
いたのです。

保全留学が始まったのは、
昨年6月。



女性の私が本当に
保全でやっていけるの？

何度も不安な気持ちに
押し潰されそうに
なりましたが、
その気持ちとは裏腹に
憧れの保全で仕事ができる
うれしさと期待の方が
勝っていたようにも思えます。



今では、不安だった
あの気持ちは
“何処に行ったの？”と
疑うくらい、
毎日が新鮮で楽しい
保全生活を送っています。



7年前入社した頃の私は、
生産課のオペレータとして、
ごく普通に会社生活を送って
いければと思っていました。

ある日、いつもどおり操作して
いたのに設備が動かなくなっ
てしまいました。



何で?

でも設備が故障したときは
いつものように
リーダーが班長が
直してくれる!

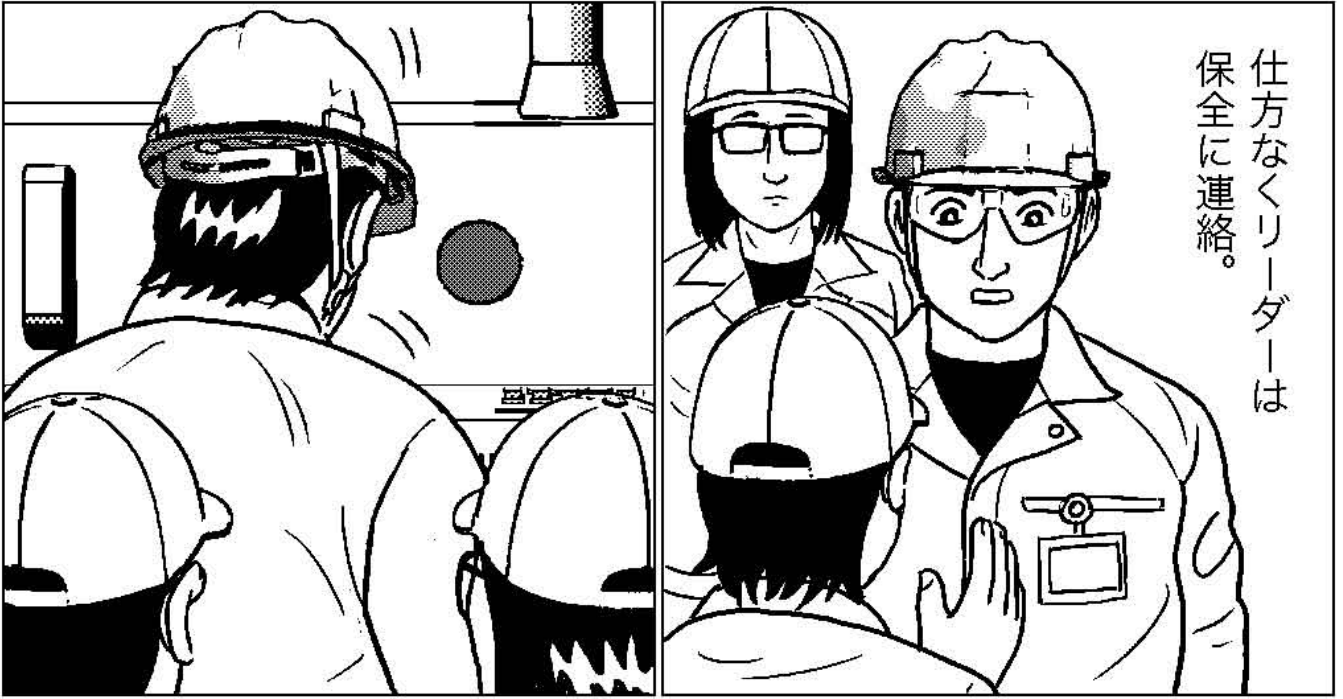
と思い、不具合を
リーダーに報告。



ところが、30分経っても
原因すら掴めず、
直る兆しも見えない状態が
続き、

うん

仕方なくリーダーは
保全に連絡。



現場に来た保全員は、
アツという間に原因を見つけて
修理してくれたのです。



テキパキと作業をする
保全員の姿を見たとき、

保全って凄いなあ、
かつこいい



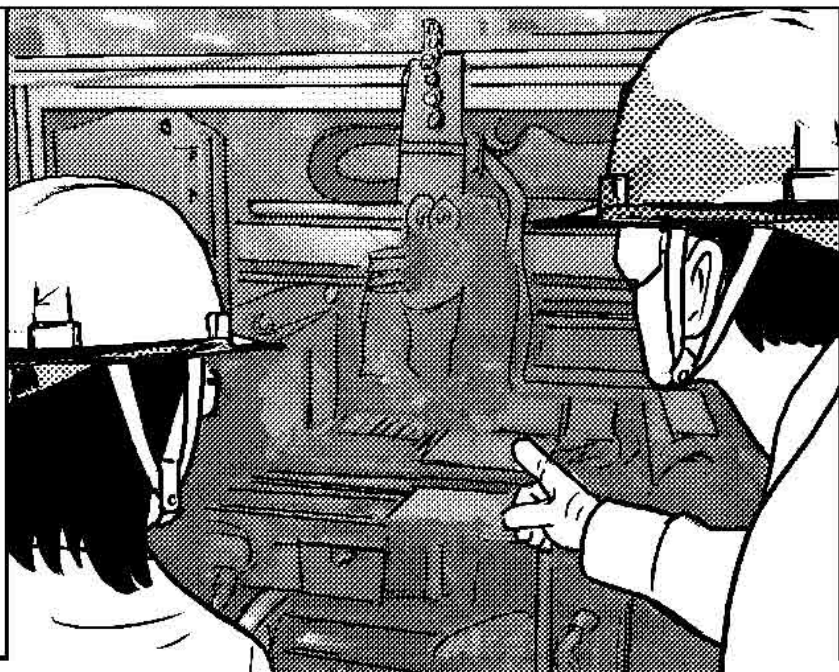
と保全への憧れの感情を抱き
『自分も、もっと設備のことを
覚えたい、知りたい』

と私の中で変化し始めた
切っ掛けでした。



その後は業務の合間を縫って
設備のことを少しでも知ろうと
設備教育を積極的に受講し、

疑問に感じたことは
リーダーや班長に質問して、
自分の知識を高めていきました。



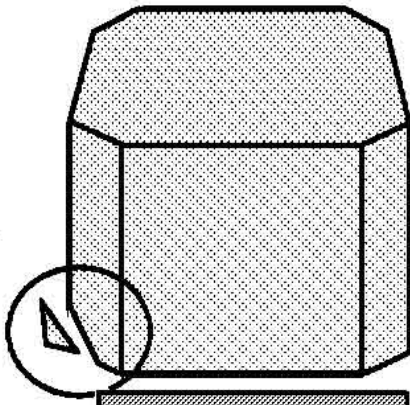
その甲斐あって、
少しずつではありますが、
担当ラインの
設備総合効率向上活動や
不良低減活動を任せられ、



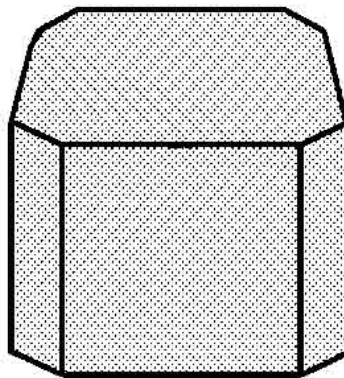
それがうれしくて
『もっと自分でできることを
増やしたい』と強く思うようにな
りました。



そうした中、
私が担当するラインでは
慢性不良に大変困っていました。



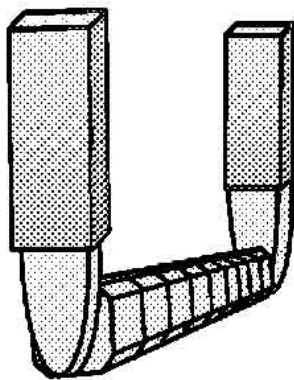
不良品



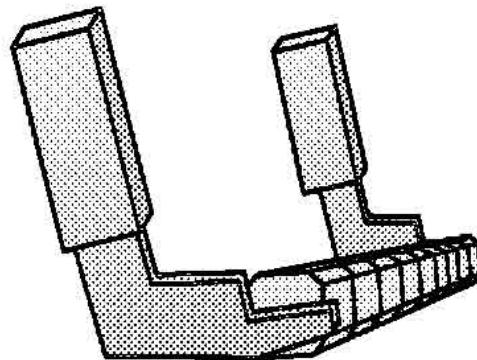
良品

それは、硬くて脆いガラス細工のような
セラミック材の製品が、
搬送時に欠けてしまう不良です。

設備知識を高めた私は、
設備構造から搬送時に製品を掴むロボットの
ハンド形状を見直し、
今以上に製品を優しく掴むようにすれば、
この課題を解決できるのではないかと
考えました。



理想



従来

しかし、私には設計の知識がなく
どのようなしたら良いのか
分かりません。

そこで、保全からアドバイスを
受けながら、
何度も図面を書き直し、作っては
修正を繰り返し

理想のハンドを完成させることができ、
職場の課題であった不良を低減することが
できました。

このとき私は今までに
感じたことのない達成感と充実感を感じ

「雲の上の存在であった保全員」になることを
実現させたいという想いが強くなっていきました。



しかし、この時は前例のない
『女性初の保全員になりたい!』という
勇気もなく、その後も今までと変わらず
生産の傍ら保全活動に取り組んでいました。



チャンスは今だ!

それを聞いた瞬間、
今まで押し殺していた感情を
抑えることができず、



もどかしい気持ちのまま年月が経った
ある日、
保全留学募集の情報を耳にしました。



レベルアップしたいので
保全留学させてください

と上司に訴えたところ、



女性保全員は
今まで居ないぞ！

大丈夫か？

と大変心配して
くれましたが、
私の意志は強く



大丈夫です！

色々工夫すれば、
女性でも何だってできる
ということを
私が証明して見せます



と強く押し切り、
最終的に上司も



と背中を力いっぱい
押してくれました。



やるからには
一人前の保全員になるまで
帰ってくるなよ

こうして、憧れを実現に向け、
進み始めた私の新たな目標は、
後輩たちの憧れの的となり

私たちも
保全ガールになりたい！

と言われるよう
新たな道を切り開いていきます。